

世田谷村日記

石山修武

十一月十八日 日曜日

二日程早稲田の学生相手の日が続いた。卒論発表会と製図講評会。七〇人ほどの学生相手に必死で底割れを防ごうとしているのが現状だ。皆同じようにしか見えない。抜きん出た者が居ない。あるいは異物が見当たらない。そうとしか思えない私の問題もあるのだろうが、大学という場所の不可能性を痛感する。できる事なら何とかしたい。何とかする為の糸口を呈示したいのはやまやまなんだが、やっぱり凄じ建築作ってみせるしかない。世田谷村に来ていた東大の木内は今想えば出色の人材だったな。人柄心根が良かった。

世田谷村を諸々の活動の心棒にする方針は変わりが無い。今日は一日中エスキスができる。モンスターの設計に目途をつけたい。

十一月十九日

早朝三時、シシ座流星群を見る為に屋上に上る。娘とその友人と三人で鉄板の上であお向けになって見た。寒かった。今日は朝から夕方まで地下室。九州大学の宮本一夫先生から突然住宅設計の依頼。福岡のネクサスの石山棟に住んで下さっている方で、奥様からもごていねいな手紙をいただき。感動してしまうような内容であったので、喜んで引受けさせていただく事にした。私のネクサス棟で育ったという娘さんに早く会ってみたいものだ。宮本先生は考古学が御専門だし、娘さんの描いた絵や、奥様の言葉の

ハシバシから察するに、“地面”が、そして都市内の自然が主題なのかなと想像した。子供と一緒に家を考えてゆこうという考えも素晴らしい。まだお会いしていないが、良い依頼主であると直観する。九州研究所の野村と世田谷の安藤の組合せで進めようと思つ。

諸々のエスキスはあんまりうまく進んでいない。あまりにもエスキスしなければならぬモノが多過ぎて、集中できない。

星の子愛児園に登場させるモンスターの一つは模型作りを指示した。スタッフに、たのむぜ、楽しんでやってくれよと祈るような気持だ。面白くやれないと仕事は上達しないんだよ。

十一月二〇日

朝から地下室で沢山のスケッチ。スタッフに渡す。夕方、聖徳寺アイデア出現する。これでゆく。霊園と呼応して凄みがあるぜコレワ。

午前中高橋工業からアルミ椅子の試作品着。心配していた座り心地および安定性はOK。溶接部ディテールに問題あり、早速高橋工業へ、もう一回試作品を作ってくれるよう連絡。細かい指示をする。何とか商品になるよう努力してみよう。明日丹羽太一へホームページ用のレイアウトを考えるよう指示するつもり。今日は色んな収穫があった。良い疲れ方をした。